

小児・ヤング糖尿病 —のびのびしっかりサポート 内潟安子 著

山本壽一(ハートライフ病院糖尿病センター)

この本を読んで驚いたのは、まず「学校の先生への手紙」で始まることだ。糖尿病を持つ子どもは学校生活においてインスリン注射や低血糖時の補食など学校の先生のサポートや学友の理解が最も大切なことである。糖尿病と診断された時には子どもも親も先生への説明をどのようにしたらよいのか不安を持つことがある。担当医師から先手を打って学校の先生に手紙を出すことは胸のすく思いだ。

次に「子どもの自立を支える」では子どもたちが糖尿病の治療に関してどのようにして自立したかを母親たちの調査結果から述べられている。しかし、その内容は子どもの自立と共に母親自身がどのようにして自立したかにオーバーラップしているようだ。そのことはお母さんから筆者へ行ったインタビューの記事からも読み取ることができる。このような順で第I章が展開していくのは、著者の豊富な小児糖尿病の臨床経験を物語っている。

第II章は「正しい知識を得る」で、子どもたちがインスリン治療で一番関心があると思われる話、「低血糖は恐くない」「インスリン治療をすると誰でも太るの?」「SMBG…」と続く。単に血糖自己

測定をするのは無意味であり、測定した値からどのように考えていくか、どのように責任インスリンを調節していけばよいのかを解説している。このような指導を受けていない子どもたちやその親は、自分たちでインスリンを調節してもよいのかと驚かれるだろう。1型糖尿病においては、患者の生活に合わせて正しい知識でインスリンを調節することが、良いコントロール状態とQOLを維持するためには不可欠である。恐らく著者が言わんとしていることは、「自分の血糖は自分で管理しなさい」、つまり医療機関からの自立でもあろう。

第3章の「最新の考え方を知ろう」では、新しいインスリン治療の話から育ち盛りの食事について、著者の臨床経験を元に述べられている。

終章は「トラブル対策」として、シックディ、オーダーメイドのインスリン治療などについて事例を挙げて解説される。

この本の対象とする読者が糖尿病を持つ小児の両親や学校の先生、小児科と内科の狭間にいるヤング糖尿病の人達を想定しているのだろうが、小児糖尿病やヤングの糖尿病に携わる医師を含めた医療関係者はぜひ読んでいただきたい。M

● A5 頁 165 2005 年

定価 1,470 円(本体 1,400 円+税 5%)

[ISBN 4-902-47012-8] シービーアール刊

(〒 113-0033 東京都文京区本郷 2-3-15 元町館

TEL 03-5840-7561 FAX 03-3816-5630

E メール:cbr@lime.ocn.ne.jp)